
2005年3月期 決算説明会

株式会社 トクヤマ

2005年5月16日



説明内容

1. 05年3月期 決算説明
2. 05年度の業績予想
3. 最近のトピックス
4. 3ヶ年計画(中期経営計画)
5. 補足資料



1. 05年3月期 決算説明

(1) 決算概要

(2) 決算要因分析

(3) 業績推移

(4) 経営目標と実績



1-(1) 決算概要

(億円)

	04年度		03年度		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
【損益状況】						
売上高	2,375	1,554	2,193	1,450	181	103
営業利益	181	102	131	95	49	7
経常利益	153	86	92	66	60	20
当期純利益	110	76	60	48	49	28
【資産状況】						
総資産	3,089	2,583	3,088	2,489	1	93
株主資本	1,343	1,253	1,244	1,178	99	74
株主資本比率	43.5%	48.5%	40.3%	47.3%	3.2%	1.2%



1-(2) 決算要因分析

- ①当期決算のポイント
- ②セグメント別 増減要因
- ③セグメント別 売上高/営業利益
- ④営業外損益明細(連結)
- ⑤特別損益明細(連結)



①-(1) 当期決算のポイント -原燃料の高騰-

原燃料価格高騰の影響（対前期比）

売上高：単体＋103億円、連結＋181億円

（単体）＋103

（数量要因）電子材料、資源環境事業、ICケミカル、クロルアルカリ等

（価格要因）塩ビ（VCM）、NOC、クロルアルカリ等

（連結）グループ会社の売上増加＋78

（数量要因）アストム統合効果、セメント販社等の固化材数量増等

（価格要因）新第一塩ビ（PVC）、サン・トックス（OPPフィルム）等

売上原価：単体＋84億円、連結＋126億円

（数量要因）電子材料、ICケミカル、クロルアルカリ、グループ会社の数量増等

（価格要因）石炭、エチレン、プロピレン等の価格高騰



①-(2) 当期決算のポイント —特別利益・税金—

特別利益の連結・単体の差について

(億円)

項 目		単体	連結
特別利益		72	27
(内 訳)	関係会社対策費戻入れ	36	—
	南部化成株売却益	11	1

税金費用の連結・単体の差について

(億円)

項 目		単体	連結	
税引前利益		121	137	
税金費用		45	14	
(主な内訳)	新第一塩ビ・台湾トクヤマ の減資等による影響	減資による法人税等の減少	▲22	▲19
		税効果会計による調整	+22	—
	新第一塩ビの繰越欠損金及び税効果		—	▲20



①-(3) 当期決算のポイント -総資産-

総資産増減の対前期比 連結・単体差（連結+1、単体+93）について

（億円）

	単 体	連 結	備 考
短期貸付金の増加	+ 80	+ 1	CMS導入による関係会社貸付金の増加
関係会社株式の減少	▲ 40	—	新第一塩ビ減資（▲42）等
投資等評価引当金の減少	+ 71	▲ 0	新第一塩ビ（+56）等



② セグメント別 増減要因(連結)

(億円)

	04年度		03年度		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	957	85	889	55	68	30
特殊品	671	92	596	63	75	28
セメント建材・他	746	32	708	40	38	▲ 7
計	2,375	210	2,193	159	181	51
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 28	-	▲ 27	-	▲ 1
連結決算	2,375	181	2,193	131	181	49



セグメント別 増減要因：化学品

(億円)

	売上高			営業利益		
	04年度	03年度	差	04年度	03年度	差
トクヤマ	696	652	+ 44	43	51	▲ 7
グループ会社	260	237	+ 23	41	4	+ 37
化学品 計	957	889	+ 68	85	55	+ 30

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	<p>クロルアルカリ 苛性ソーダ・POの価格是正、販売数量増等により増収</p> <p>NOC IPAの価格是正により増収</p> <p>塩ビ(VCM) 新第一塩ビ向け価格是正、輸出価格UP等により増収</p> <p>ラップフィルム営業譲渡により減収(▲6)</p>	<p>ソーダ灰・塩カル 原燃料高・償却費増により減益</p> <p>クロルアルカリ 原燃料高騰を価格是正・販売数量増で補い、前期比横ばい</p> <p>NOC 原燃料高騰を価格是正により横ばい</p> <p>塩ビ(VCM) 原料高の新第一塩ビへの転嫁にタイムラグあり減益</p>
グループ	<p>新第一塩ビ(PVC) 価格是正により増収</p> <p>サン・トックス 価格是正、販売数量増により増収</p> <p>トクヤマホームプロダクツ営業譲渡により減収(▲20)</p>	<p>新第一塩ビ(PVC) 価格是正により増益</p> <p>サン・トックス 販売数量増、価格是正によりカバー</p> <p>トクヤマホームプロダクツ営業譲渡により損益改善</p>



セグメント別 増減要因：特殊品

(億円)

	売上高			営業利益		
	04年度	03年度	差	04年度	03年度	差
トクヤマ	458	416	+ 42	69	45	+ 24
グループ会社	212	179	+ 33	22	18	+ 4
特殊品 計	671	596	+ 75	92	63	+ 28

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	<p>【Si事業】</p> <p>電子材料 多結晶シリコンの販売好調、輸出分の価格 是正も寄与</p> <p>機能性粉体 乾式シリカの販売が堅調</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品 販売好調</p> <p>窒化アルミニウム 販売不振</p> <p>イオン交換膜事業をアストムに移管(▲8)</p>	<p>【Si事業】</p> <p>電子材料 数量効果・合理化、価格是正により増益</p> <p>機能性粉体 乾式シリカは堅調な一方、湿式シリカが競争激化 のため、前期比横ばい</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>半導体・液晶向け高純度薬品 原料高騰により前期比横ばい</p> <p>窒化アルミニウム 販売不振により減益</p>
グループ	<p>アストム 旭化成ケミカルズとの事業統合により増収</p> <p>フィガロ技研 欧米での市場開拓等により増収</p> <p>トクヤマ・サイアム・シリカ OSC社との提携により増収</p>	<p>アストム 旭化成ケミカルズとの事業統合により増益</p> <p>フィガロ技研 売上増、コストダウンにより増益</p>



セグメント別 増減要因：セメント建材その他

(億円)

	売上高			営業利益		
	04年度	03年度	差	04年度	03年度	差
トクヤマ	398	382	+ 16	18	25	▲ 7
グループ会社	347	326	+ 21	14	14	0
セメント建材他 計	746	708	+ 38	32	40	▲ 7

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	セメント 固化材販売増により増収 資源環境 処理量増加により増収	セメント 原燃料価格の高騰に対する価格是正遅れにより減益 資源環境 処理量増加により増益
グループ	セメント販社 固化材等の販売増により増収 シャノン 関東以西での拡販により増収	シャノン 原料価格の高騰により減益 生コン会社 合理化等により損益改善



③ セグメント別 売上高/営業利益

	04年度		03年度		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	957	85	889	55	68	30
トクヤマ	696	43	652	51	44	▲ 7
Gr. 会社(連結修正含む)	260	41	237	4	23	37
特殊品	671	92	596	63	75	28
トクヤマ	458	69	416	45	42	24
Gr. 会社(連結修正含む)	212	22	179	18	33	4
セメント建材・他	746	32	708	40	38	▲ 7
トクヤマ	398	18	382	25	16	▲ 7
Gr. 会社(連結修正含む)	347	14	326	14	21	0
計	2,375	210	2,193	159	181	51
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 28	-	▲ 27	-	▲ 1
連結決算	2,375	181	2,193	131	181	49



④ 営業外損益明細(連結)

(億円)

		04年度	03年度	差	摘 要
営業外収益	受取利息配当	3	3	0	
	その他	36	21	14	持分法利益 +12
		40	24	15	
営業外費用	支払利息・社債利息	18	24	▲ 5	
	その他	49	39	9	
		68	64	4	
営業外損益		▲ 28	▲ 40	11	



⑤ 特別損益明細(連結)

(億円)

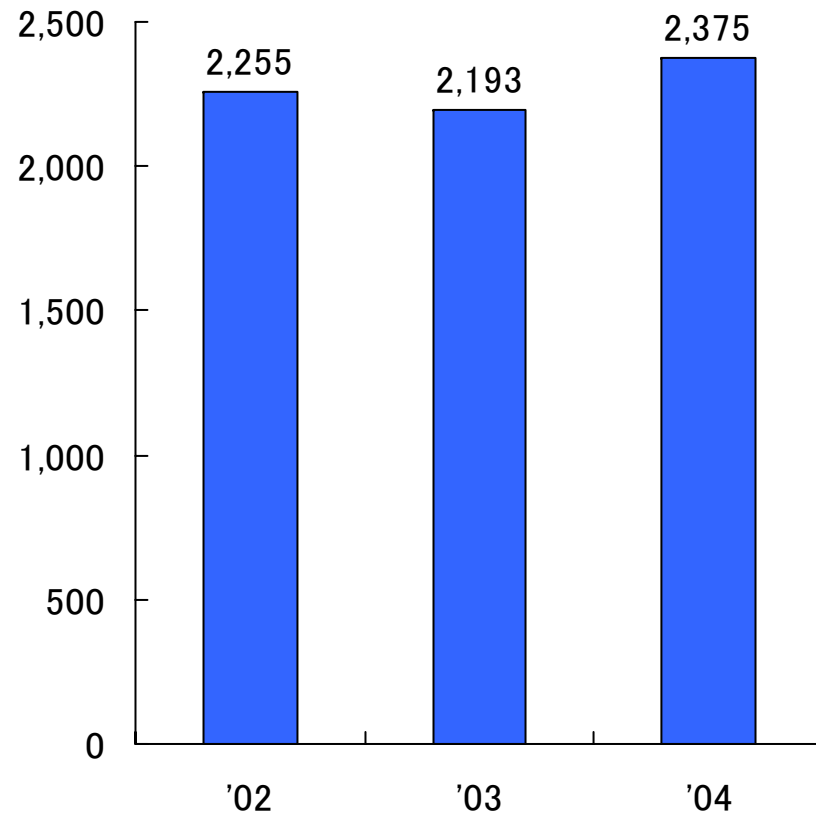
	04年度	03年度	差	備 考
特別利益	27	24	2	・過去勤務債務償却益 ▲21 (03年度 21⇒04年度 0) ・SS移転補償金 +19
特別損失	43	14	29	・固定資産圧縮損 +15 ・固定資産減損損失 +14
特別損益	▲ 16	11	▲ 26	



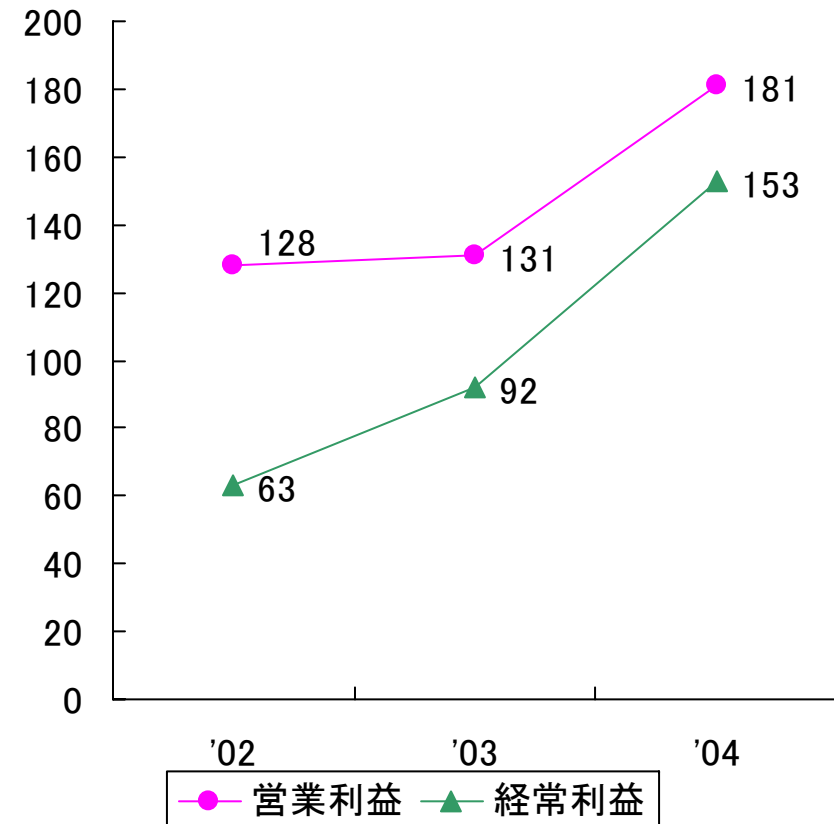
1-(3) 業績推移① (連結)

(億円)

売上推移



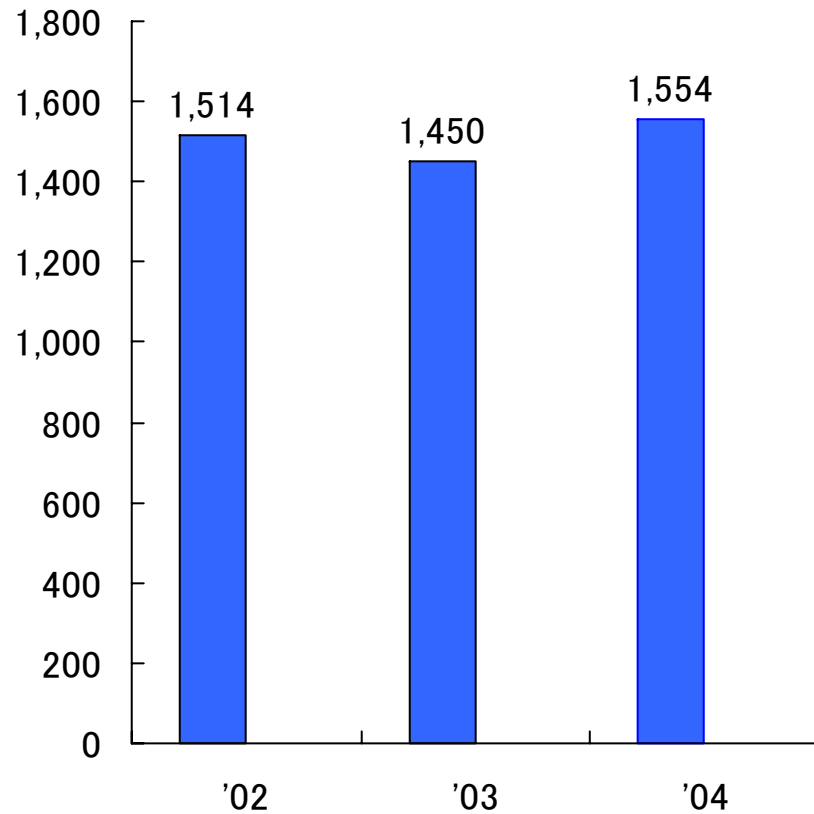
利益推移



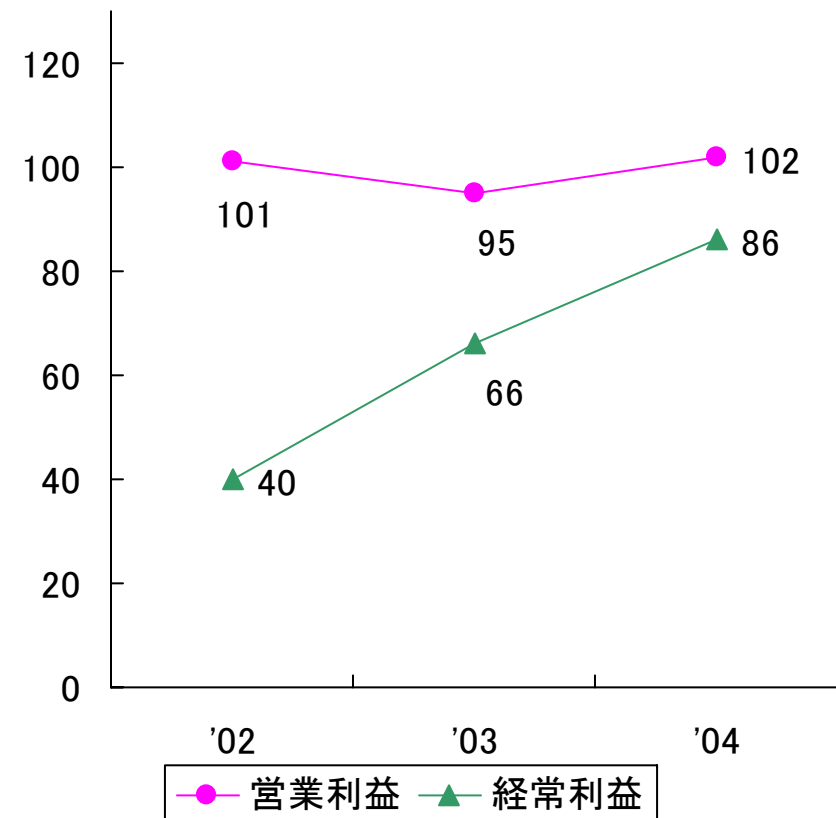
業績推移②（単体）

（億円）

売上推移

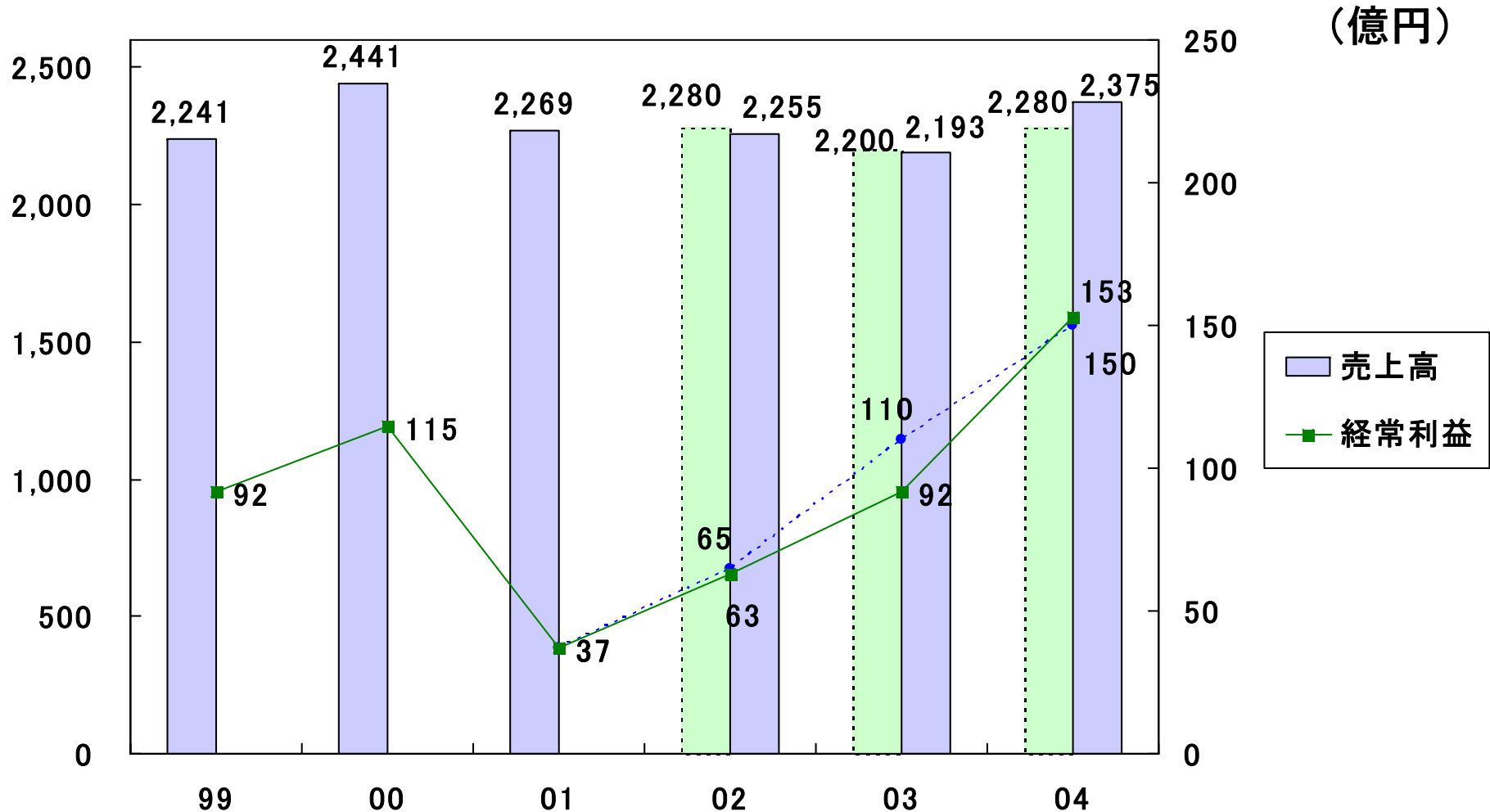


利益推移



1-(4) 経営目標と実績①

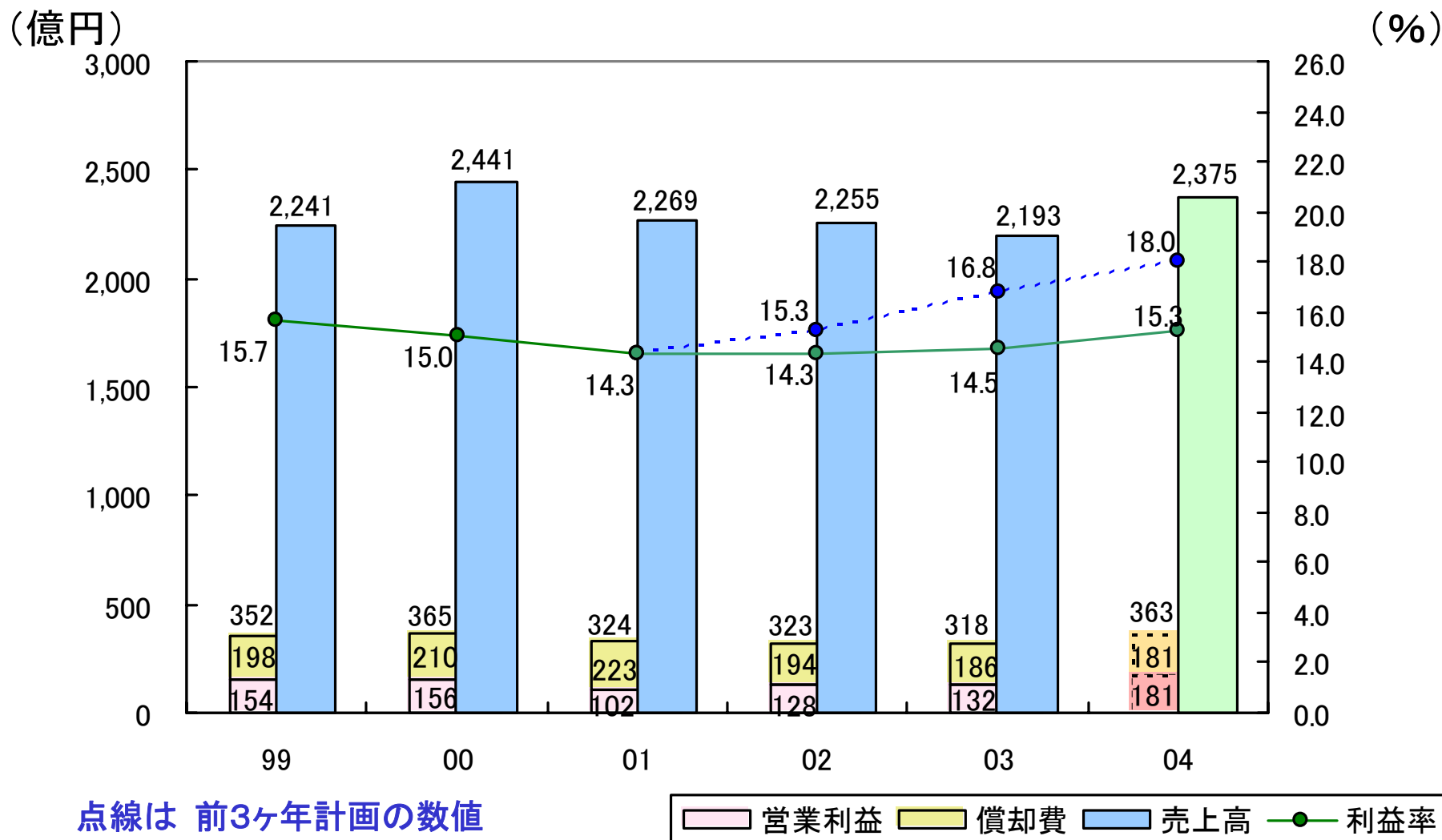
— 経常利益(連結) —



点線は 前3ヶ年計画の数値

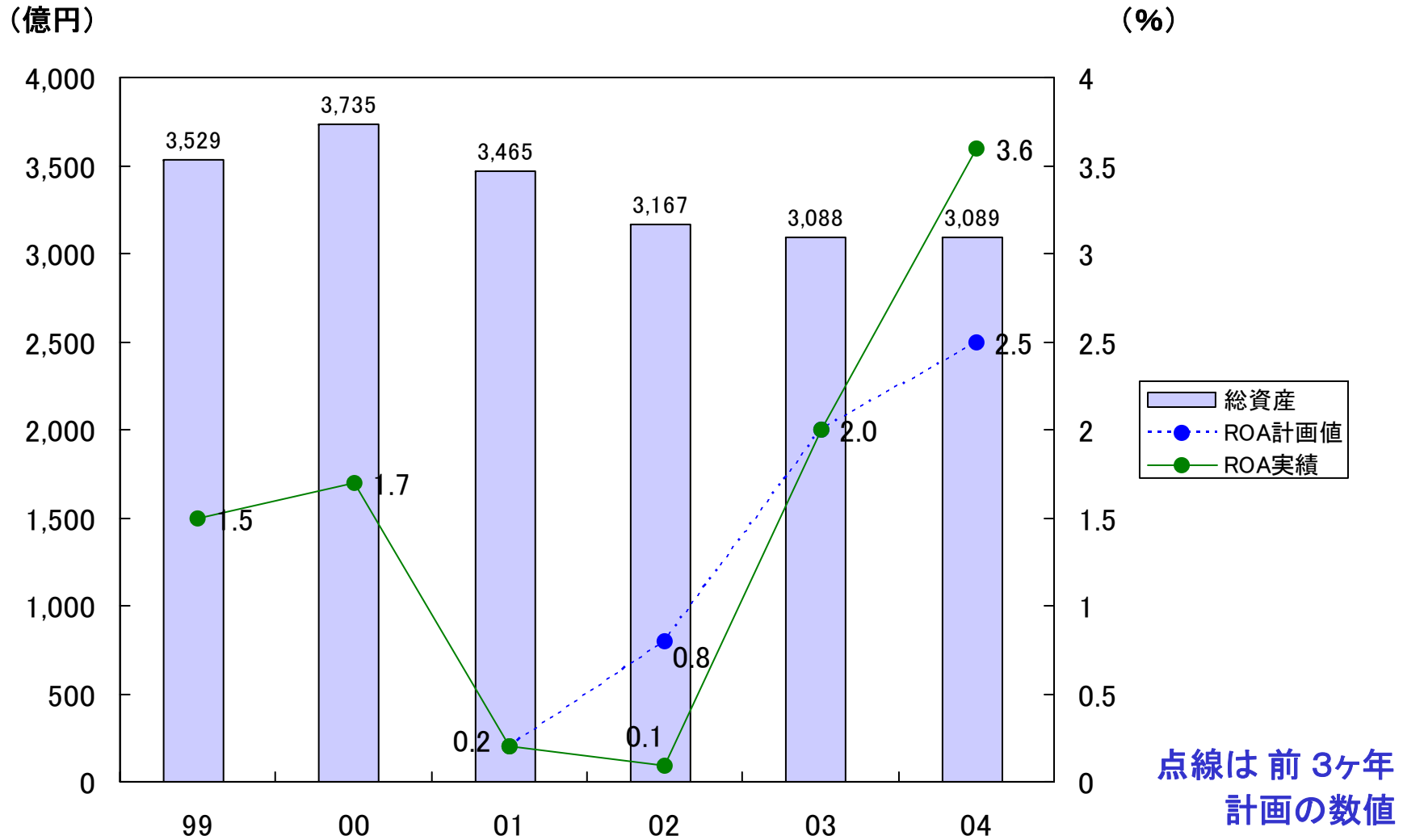
経営目標と実績②

—売上高償却前営業利益率(連結)—



経営目標と実績③

—ROA推移(連結)—



2. 05年度の業績予想

(1) 05年度の事業環境

(2) 05年度業績予想



2-(1) 05年度の事業環境

- 原燃料価格の高騰等の影響を懸念
- I T 関連製品の需要見通しに不透明感



2-(2) 05年度業績予想

①セグメント別 売上高/営業利益

(05通期予想/04通期実績対比)

②セグメント別売上高/営業利益推移

③ここ10年間の業績推移



① セグメント別 売上高/営業利益(通期比較)

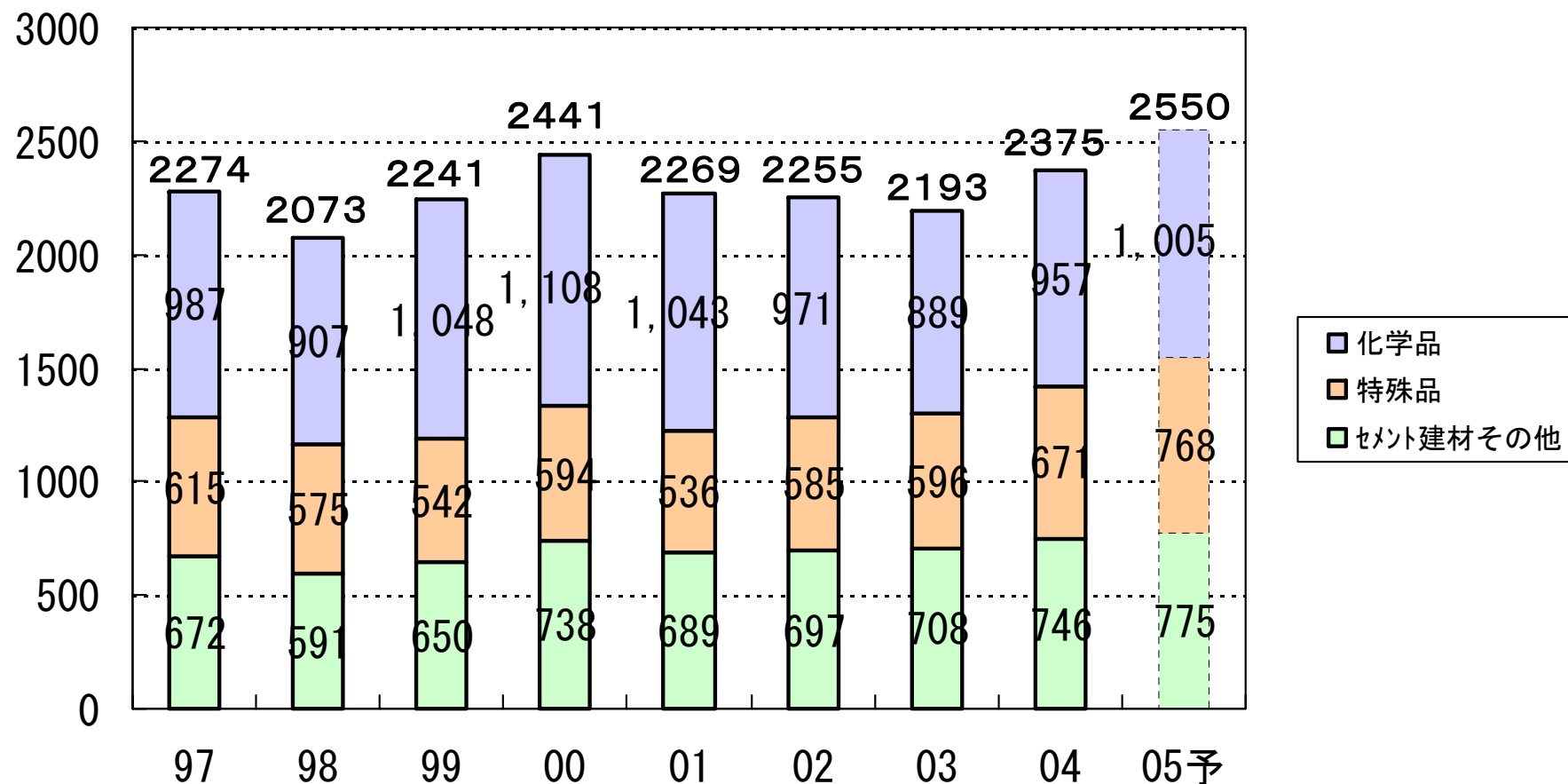
(億円)

	05通期予想		04通期実績		差	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	1,005	76	957	85	48	▲ 9
トクヤマ	722	41	696	43	26	▲ 2
Gr. 会社(連結修正含む)	282	34	260	41	22	▲ 7
特殊品	768	137	671	92	97	45
トクヤマ	532	118	458	69	74	49
Gr. 会社(連結修正含む)	236	18	212	22	24	▲ 4
セメント建材・他	775	36	746	32	29	4
トクヤマ	395	19	398	18	▲ 3	1
Gr. 会社(連結修正含む)	380	17	347	14	33	3
計	2,550	250	2,375	210	175	40
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 30	-	▲ 28	-	▲ 2
連結決算	2,550	220	2,375	181	175	39



② セグメント別 売上高推移 (連結)

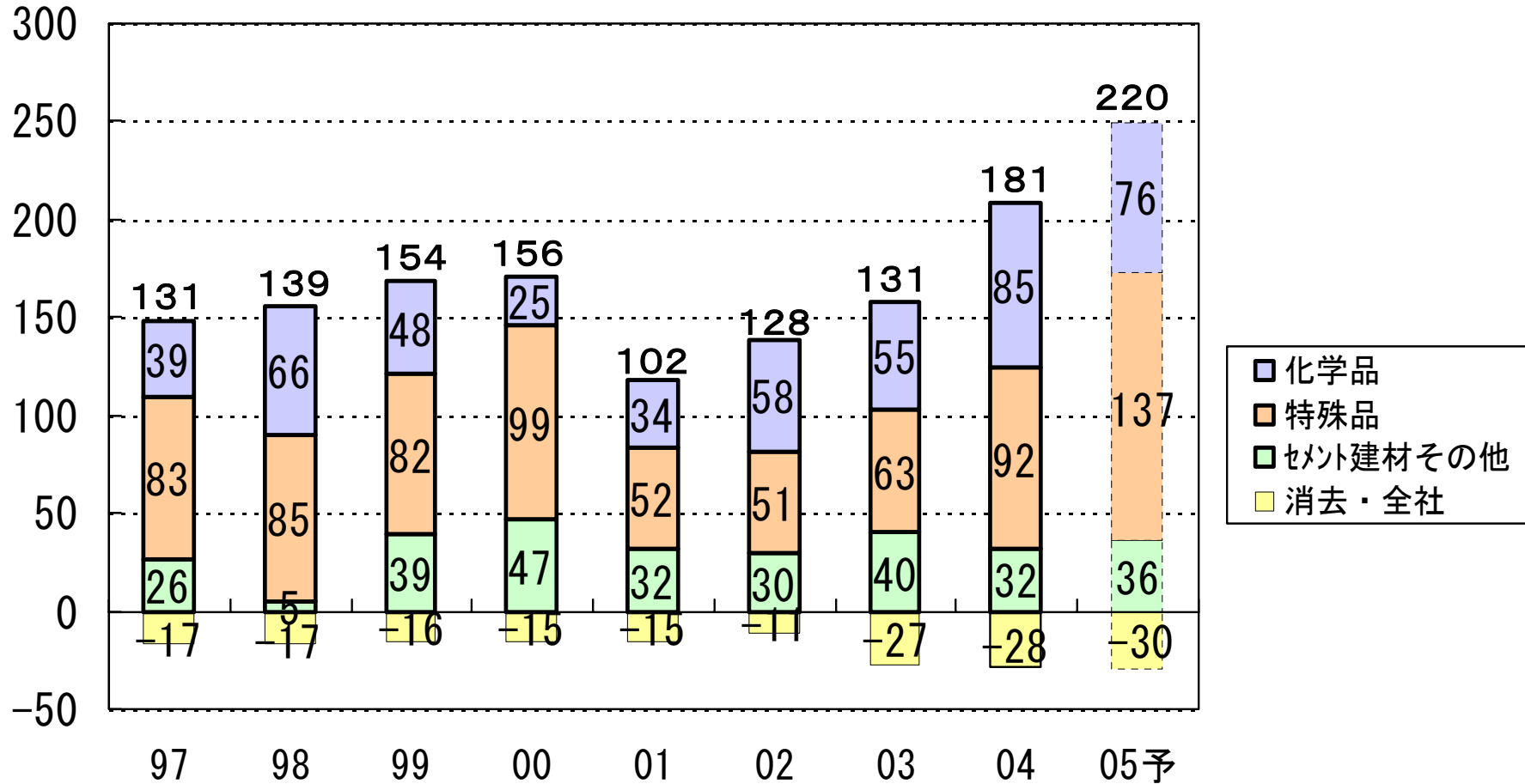
(億円)



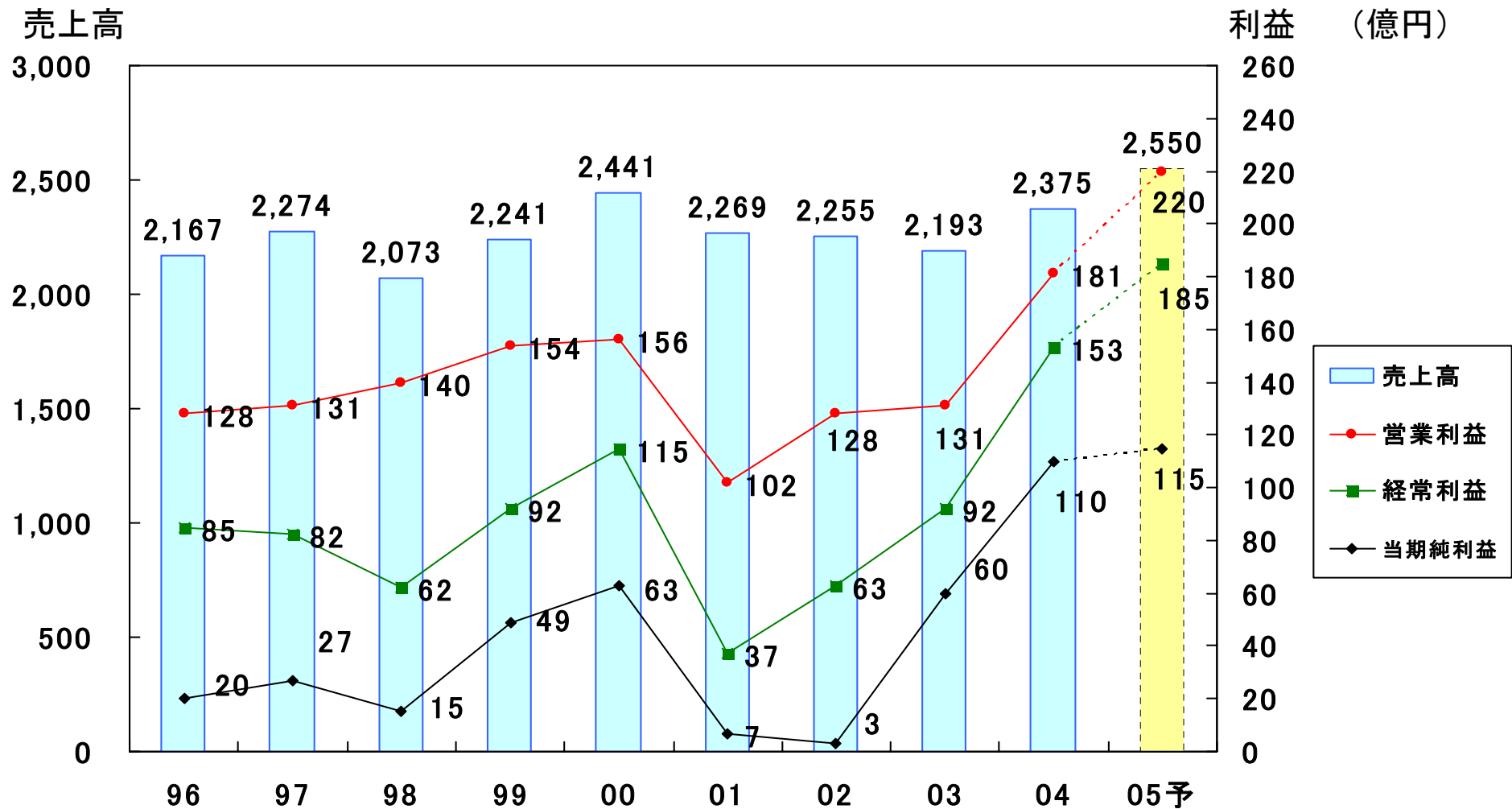
セグメント別 営業利益推移（連結）

（03年度以降は新会計処理方法により表示）

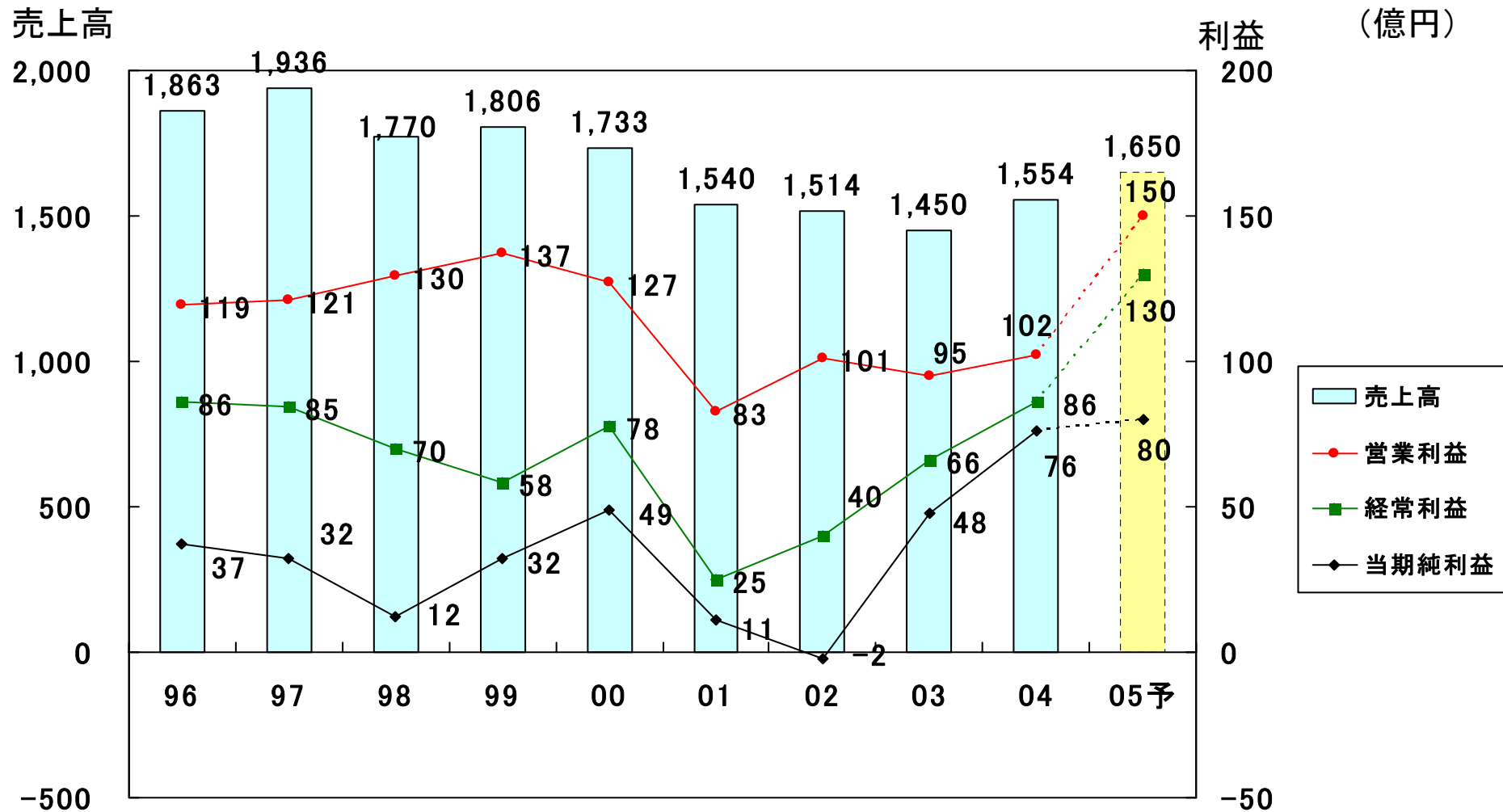
（億円）



③ ここ10年の業績推移（連結）



ここ10年の業績推移(単体)



3. 最近のトピックス（抜粋）

- 燃料電池用炭化水素系電解質膜を開発
携帯端末用燃料電池をターゲットとして
06年事業化を目指す
- 第4期廃プラスチック燃料化プラント起工
05年11月完成、投資金額18億円
処理能力 +40,000トン ⇒ 125,000トン/年へ



-
-
- 乾式シリカ中国進出（浙江省嘉興市）
05年11月着工、06年末完成予定
生産能力 5,000トン 投資金額 約30億円
アジア最大の乾式シリカメーカーへ
 - 太陽電池用VLD法実証プラント着工（2月）
05年末完成予定、投資金額 約30億円
生産能力200トン
順調に行けば06年初頭サンプル出荷開始



-
-
- フッ化カルシウム (CaF_2) 単結晶開発体制強化
試験的商業ステージへ移行
05年9月年産300枚体制、投資金額約10億円
 - 現像液のマテリアルサイクル技術を共同開発
05年4月シャープ（三重）での取組み開始
今後、大手ユーザーへの展開を図る
 - 基幹職賃金制度の改定
05年4月より、基幹職の意識改革と元気の創出を
目的として職能型から年俸制へ



4. 3ヶ年計画(05~07年度)

- (1) 3ヶ年計画のテーマ
- (2) 経営目標
- (3) 計画の位置付けと進め方
- (4) 経営資源の先行投入
- (5) 成長戦略のシナリオ実行の基準
- (6) 成長戦略の進め方



(1) 3ヶ年計画のテーマ

テーマ

次なる中長期の企業価値向上シナリオ

- トクヤマの事業と事業環境の変化を企業価値に繋げるシナリオ
- 企業価値向上のための経営資源の投入に対するリターンをより確実なもの、大きなものとするシナリオ



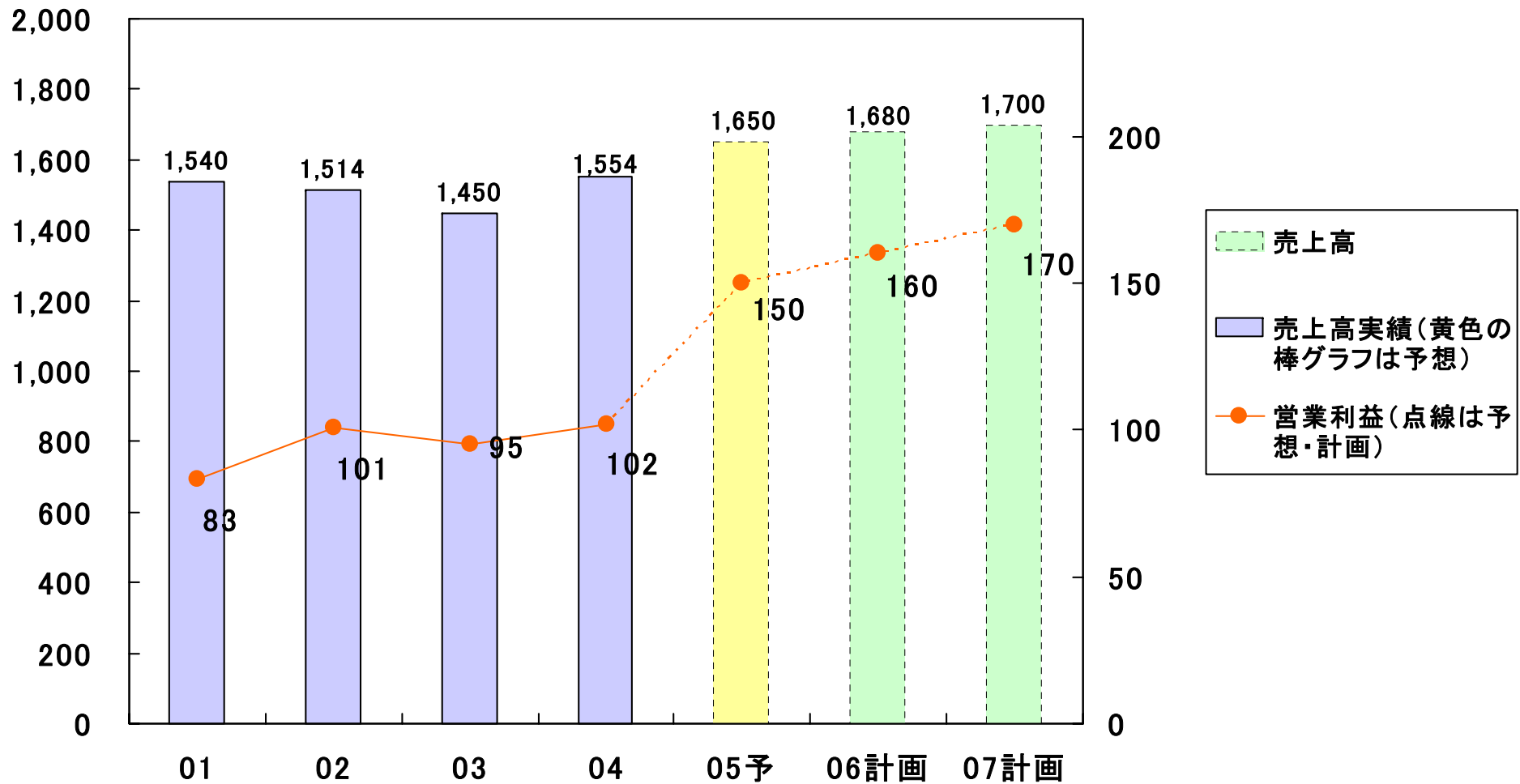
(2) 経営目標

最終年度(07年度)連結ベース

- 売上高 2,600億円以上
- 営業利益率 10%以上
(売上高償却前営業利益率 18%以上)
- ROA 3.0%以上



売上高、営業利益目標推移(単体)

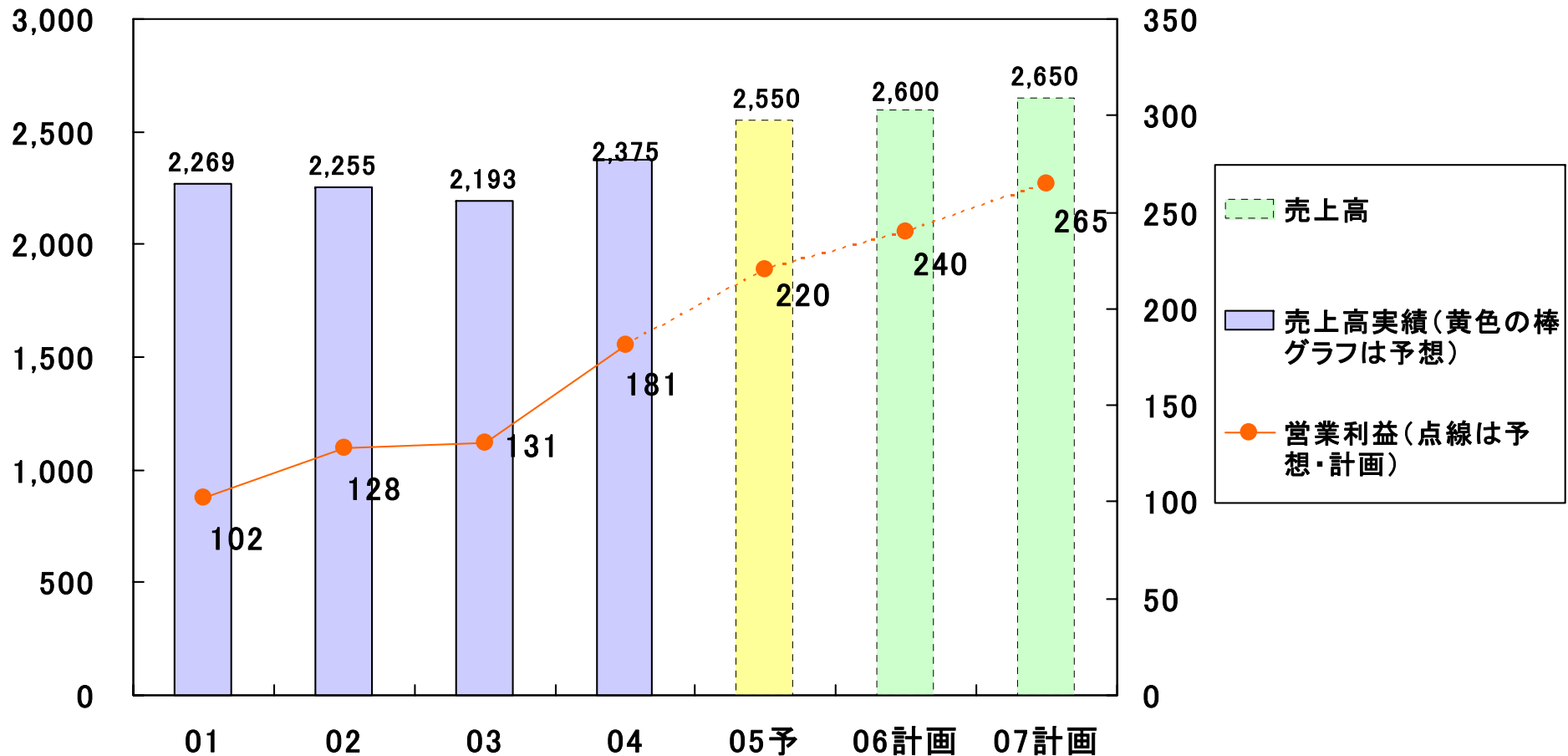


売上高、営業利益目標推移(連結)

売上高

営業利益

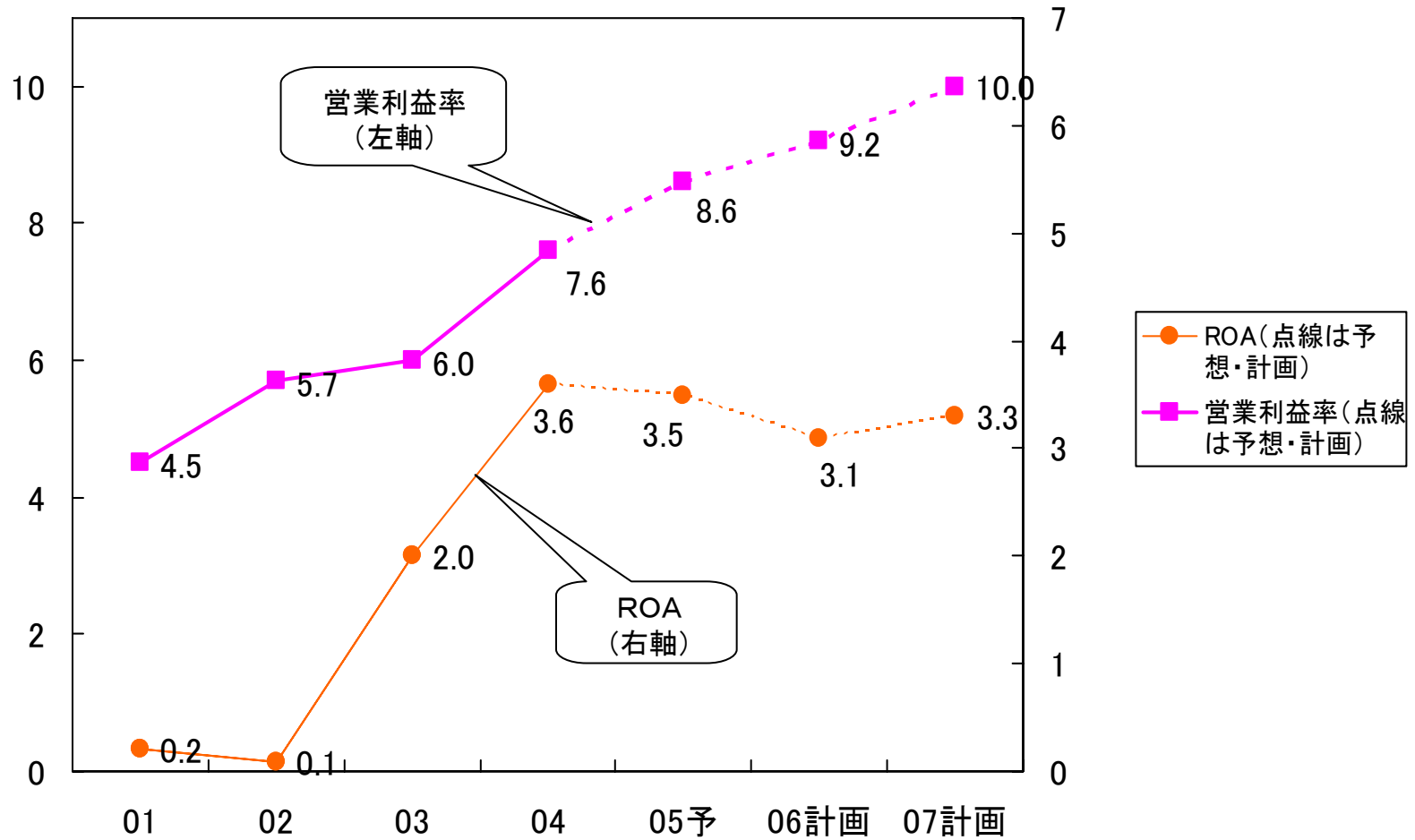
(億円)



ROA、営業利益率目標推移(連結)

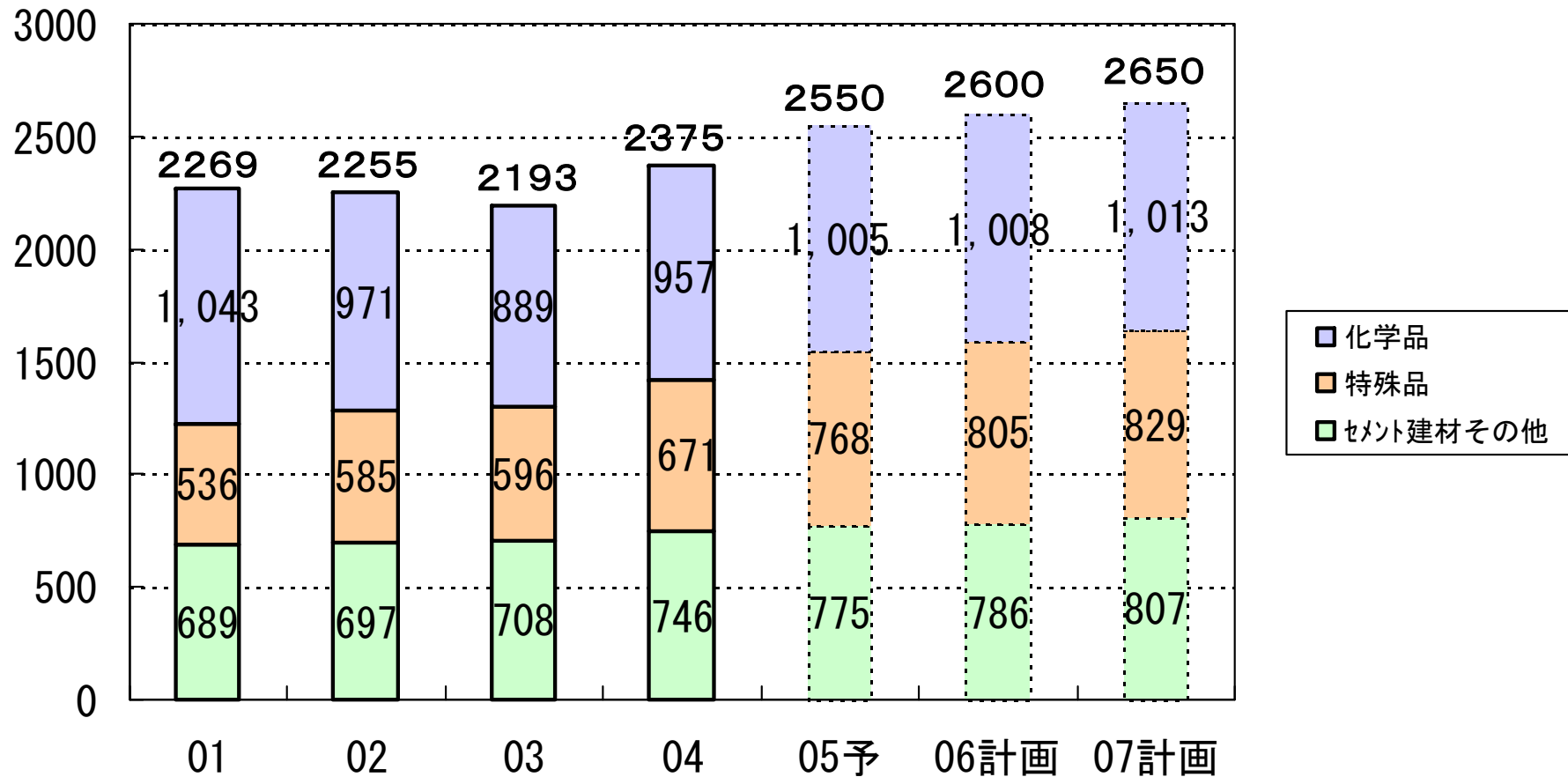
(営業利益率: %)

(ROA: %)



セグメント別 売上高目標推移（連結）

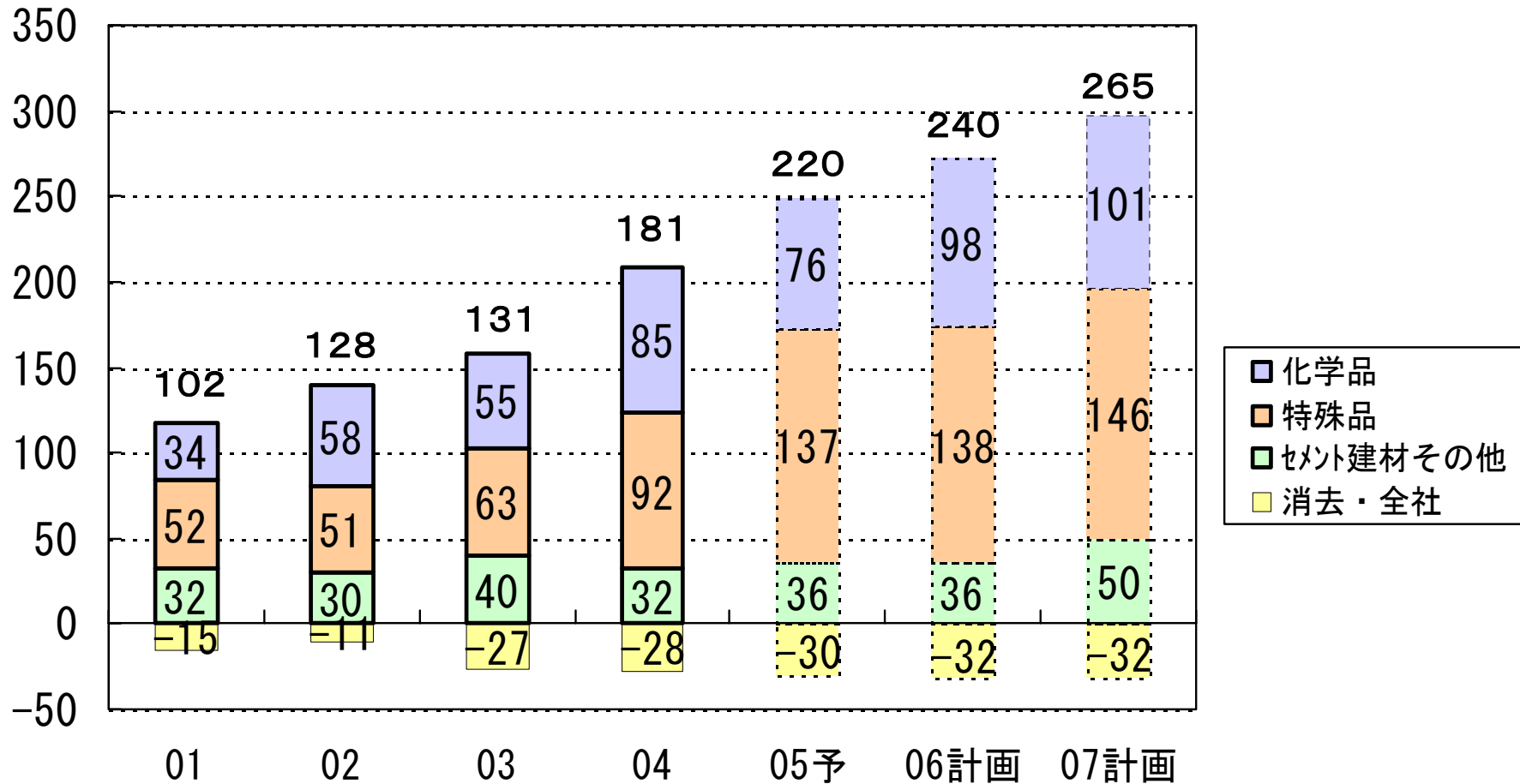
（億円）



セグメント別営業利益目標推移(連結)

(03年度以降は新会計処理方法により表示)

(億円)



(3) 計画の位置付けと進め方

計画の位置付け

- 「危機感」と「緊張感」を共有しつつ、最終年度に迎える創立90周年をマイルストーンとし、次なる中長期の成長戦略を実現するためのシナリオ

計画の進め方

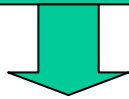
- 事業ポジションの設定
「攻める」「守る」「切り拓く」
- 4つの成長への取組みによる推進
「質の成長」「量の成長」
「機能の成長」「インフラの成長」



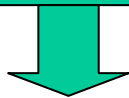
(4) 経営資源の先行投入

収益の上昇トレンドを引き続き維持しつつ、中長期の企業価値向上に向けて経営資源の先行投入を進める

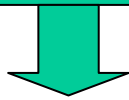
前3ヶ年計画の成果



3ヶ年計画の収益



経営資源の先行投入



企業価値向上へ

経営資源の投入にあたって

- 営業CFの増加分を成長戦略推進に投入
- 年度毎の投入量の平準化を図る
- 連結設備投資額は3年間で750億円を予定
- 連結有利子負債は現状の水準900億円を維持



(5) 成長戦略のシナリオ実行の基準

- 事業環境の変化を企業価値向上に向けてのチャンスと捉える
- 現状の事業構造を活用し、トクヤマにしかできない事業シナリオを構築する
- 強い事業をより強くすることに重点を置く



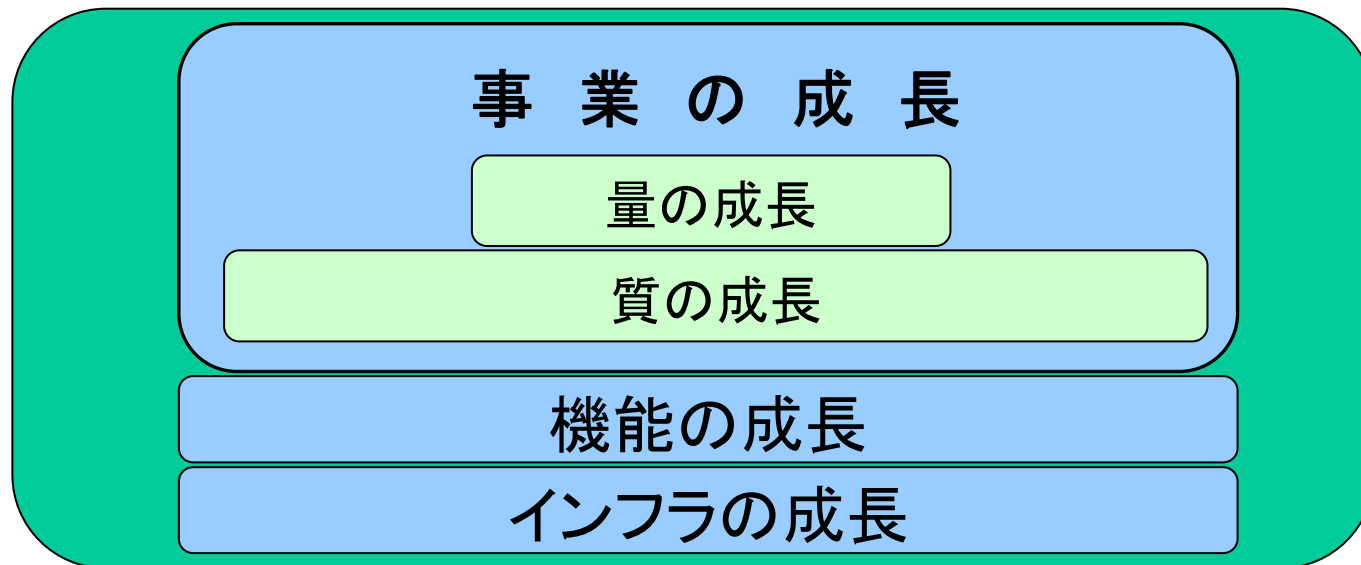
(6) 成長戦略の進め方

■ 「攻める」「守る」「切り拓く」設定による推進

- 事業の多極構造を前提とし、これを活用する
- 事業のポジションの違いを前提とし、「強い事業をより強く」の考え方にに基づき、事業ごとに「攻める」「守る」「切り拓く」の3つの方針を使い分ける
- 「攻める」「守る」「切り拓く」の取り組みの集積結果として安定的な収益向上を実現する



■ 4つの成長への取組みによる推進



● 事業の成長

事業の内容と進め方を変える取組み

「質の成長」：競合他社に対する事業の差別化を進める

「量の成長」：「攻める」事業について、規模による差別化を進める



●機能の成長

「事業の成長」を実現するための組織、人財の変革

- ・ P D C A サイクルをベースとした戦略実行機能の強化
- ・ 企業の持続性を担保するための機能強化
 - ➡ 無事故無災害記録の継続、CSRの考え方を導入
- ・ 4事業部門制を前提とした横通し機能の強化
 - ➡ プロジェクトチームの活用、情報と知恵の流通
- ・ 人財の元気を生み出す仕組の整備、人財の最適配置

●インフラの成長

- ・ 徳山製造所をマザーファクトリーと位置付け、世界最適立地での製造体制を目指す
- ・ 徳山製造所のインフラ整備に向け最適シナリオを検討する
- ・ 情報インフラ：新たなシステム構築に向け検討を行う



4つの成長における事業ポジション

	事業の成長イメージ		機能の成長	インフラの成長
	質の成長	量の成長		
攻める	<ul style="list-style-type: none"> 資源環境 電子材料 乾式シリカ ICケミカル 		<ul style="list-style-type: none"> P D C A サイクルによる戦略実行機能 企業の持続性を担保する機能 PJ 活用による部門間の横通し機能 人財の元気を生み出す仕組みの整備 	<ul style="list-style-type: none"> 世界最適立地 徳山製造所のインフラ整備に向けシナリオ検討 情報システムの再構築検討
切り拓く	<ul style="list-style-type: none"> 湿式シリカ ファインケミカル シェイパル 新規事業 独立事業会社 洗浄システム NF (微多孔質フィルム) 			
守る	<ul style="list-style-type: none"> ソーダ・塩カル セメント クロールアルカリ 塩ビ (VCM) N O C 			



5. 補足資料

- (1) 主要指標
- (2) 有利子負債
- (3) 金融収支
- (4) 連結子会社・持分法適用会社数他
- (5) その他指標
- (6) フリーキャッシュフロー推移（連結）
- (7) 設備投資額推移（単体）
- (8) 有利子負債残高推移（連結）
- (9) 主要関係会社売上高一覧



(1) 主要指標①

		04年度		03年度		差	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	143	125	162	138	▲ 18	▲ 12
減価償却実施額	億円	184	146	189	151	▲ 5	▲ 5
研究開発費	億円	88	68	87	65	1	2
期末有利子負債残高	億円	893	736	1,046	763	▲153	▲ 26
金融収支	億円	▲ 15	▲ 3	▲ 21	▲ 9	5	6
期末人員	人	4,614	2,004	4,568	2,113	46	▲109



(1) 主要指標②

(億円)

		05年度予想		04年度		03年度	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	235	214	175	150	166	136
	実績(計上)	—	—	143	125	162	138
減価償却費		185	149	184	146	189	151
研究開発費		98	77	88	68	87	65



(2)有利子負債

(億円)

	04年度		03年度		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
短期借入金	178	97	259	71	▲ 80	25
長期借入金	366	291	390	295	▲ 24	▲ 4
社債	348	348	396	396	▲ 48	▲ 48
合計	893	736	1,046	763	▲153	▲ 26



(3) 金融収支

(億円)

	04年度		03年度		差	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体
受取利息 配当金	3	11	3	8	0	2
支払利息 社債利息	18	14	24	18	▲ 5	▲ 4
金融収支	▲ 15	▲ 3	▲ 21	▲ 9	5	6



(4)連結子会社・持分法適用会社数

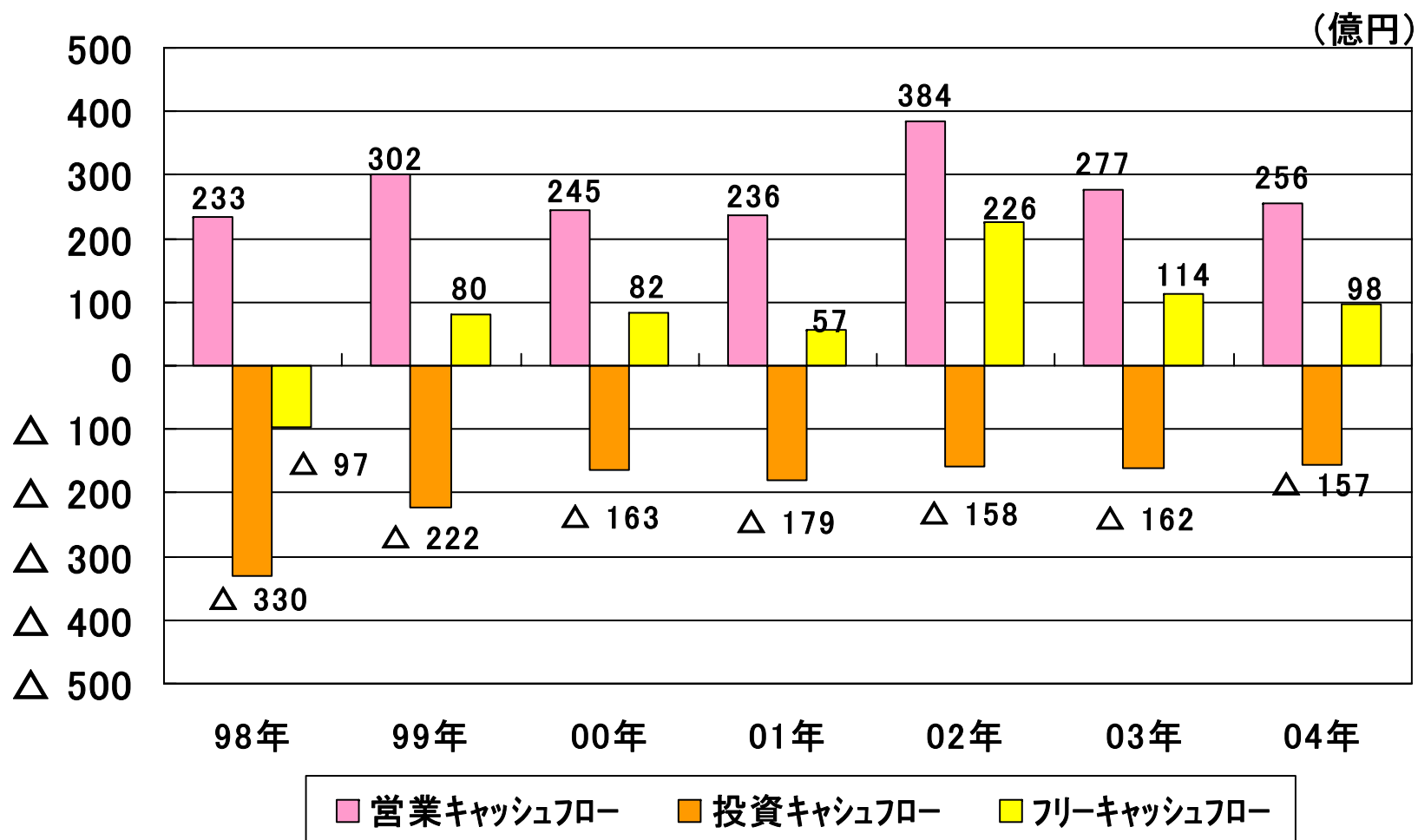
	04年度	03年度
連結子会社	42	41
持分法適用会社	16	16

(5)その他指標

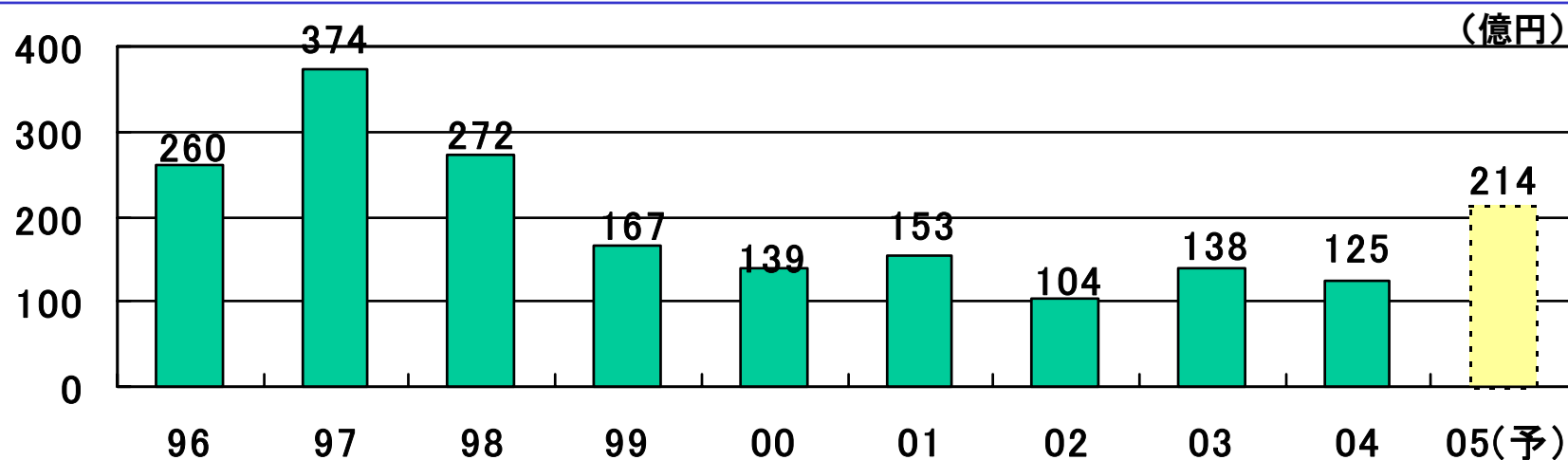
	05／上 予算	
国産ナフサ価格 (円／KL)		35,000
為替 (円／\$)	購買	105
	輸出	100



(6)フリーキャッシュフロー推移(連結)



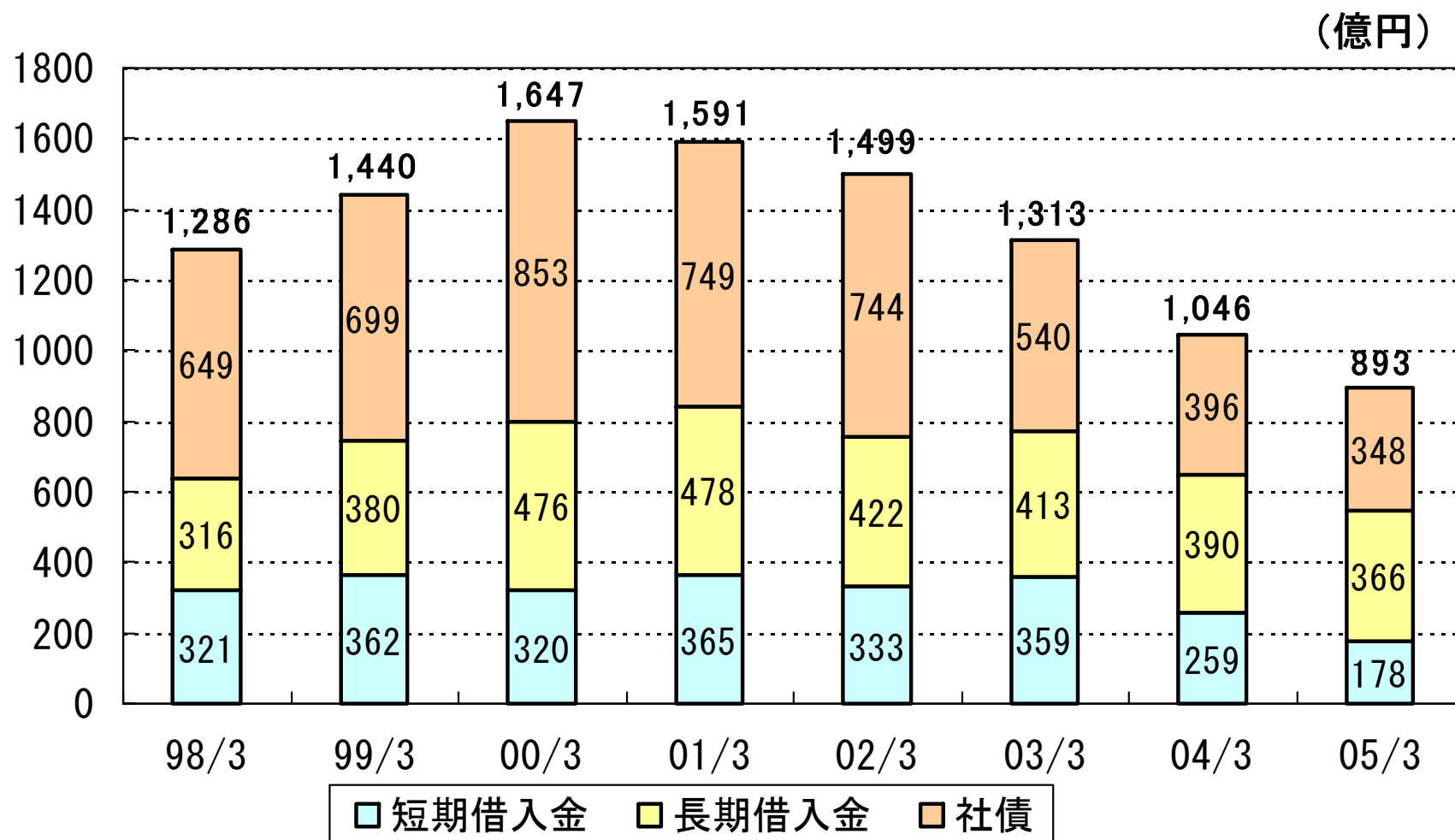
(7)設備投資額推移（単体）



	97～99	00～02	03～
能力増強	東2号発電所 多結晶シリコン増設 シリカ増設 IPA増設 電解増設、マルチプラント 廃棄物燃料化設備	多結晶シリコン増設 特殊シリカ増設 窒化アルミ増設 電解・EDC増設 廃棄物燃料化設備	廃棄物燃料化設備 多結晶シリコン、VLD実証P シリカ増設 現像液増設 9号タービン更新 CaF ₂ 生産設備
合理化		8号ボイラー更新	8号ボイラー更新
環境・省エネ	発電所排脱硫・脱硝・集塵 廃塩酸回収		電解S&B



(8)有利子負債残高推移(連結)



(9)主要関係会社売上高一覧 (04年度 売上上位10社)

	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高 (百万円)	
					04年度	03年度
①	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	26,742	22,938
②	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	12,185	10,943
③	オグリ湘南(株)	セメント・生コンクリート、 各種建設資材の販売	80	100	9,923	8,902
④	(株)シャノン	プラスチックサツの製造販売	495	100	9,526	9,244
⑤	(株)トクヤマ通商	セメント・生コンクリート、 各種建設資材の販売	50	70	8,470	7,078
⑥	(株)トクヤマロジスティクス	内航海運業、倉庫業、一般 貨物運送業、産業廃棄物収 集運搬業	100	100	6,165	5,377
⑦	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及 び関連システムの販売	578	52	6,072	5,702
⑧	周南システム産業(株)	宅地建物取引・建材販売、 生損保保険代理店、工場構 内作業請負	151	100	4,614	4,436
⑨	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設 資材の販売	40	100	4,244	3,997
⑩	(株)トクヤマデンタル	歯科医療用器材及び関連材 料の製造販売	100	100	3,698	3,758



本資料に関するご注意

- 本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- 本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。



生活を奏でる化学です

TOKUYAMA

